



# 名寄市立大学の窓から

## 知への誘い

vol.66



### 「名寄で行う森林環境教育」

保健福祉学部 社会保育学科

准教授

柳原 やなぎはら

高文 たかふみ

日彰地区にある神社山で  
中名寄小学校の子どもたち  
と自然観察を行っています。

まだ雪が深い3月、スノーシューを履いて神社山に向かいました。夏にはこんもりと葉が生い茂っている神社山ですが、この時期は葉の落ちた木々たちでスカスカに見えます。「こうやって見ると神社山の姿がわかるね。冬でも葉を落とさない木や、葉を落とした木たち、たくさん樹木があるね。あの白い木は何かな？」と子どもたちに聞くと「シラカバだよーきれいだね」と、すぐ返事がきます。

昨年夏に、数多くの樹木に樹名板をつけた後、特徴と名前を覚える「子ども樹木博士認定活動」を行いました。そのことから子どもたちは、神社山に生育しているイタヤカエデ、ナナカマド、キタコブシ、トドマ

ツなどの樹木の識別が遠目でもできるようになっています。神社山に入ると、目の高さにつけたはずの樹名板が足元に見えます。「すごい雪の深さだね。あれっ？キタコブシはどこだろう？」「ここにあるよ、ほらフカフカの冬芽をつけているよ！」「本当だーフカフカだ！」普段は、子どもたちの視線より上にあるキタコブシの枝が、降り積もった雪のおかげで手にとって見られます。「あそこに大きな枯れている木があるね。あの枯れた木は、この神社山に必要なのかな？」子どもたちに投げかけたこの言葉に、すぐに反応がありました。「あったほうが良いよー！」どうして？「だって枯れた木がある」と、虫が食えることができるからだよー！「なるほど！じゃあ、その虫たちはどうなるの？」鳥が食へに来る

よー！鳥がやってくるとうなるの？」「糞をして新しい種をまくよー！・・・こんな会話が続きました。この子たちには、「たくさん生き物が暮らしているから自然が豊かになる」という生物多様性の考えが自然と身についてきています。子どもたちの暮らしている地域の自然を知り、守ることは大切なことです。この『地域の自然を知る』ということは、植物や動物の名前を覚えることだけが「知る」ということではありません。それらの生き物が、どのような環境で、食べる・食べられるの関係を保ちながら、繰り返し子孫を残していくということまでを理解するのが「知る」ということなのです。

この神社山にも外来種による環境破壊が危惧されます。「この木はハリエンジュ（ニセアカシア）と言って、春には綺麗でハチミツがたくさんとれる花が咲きます！」「いいね！」でもハリエンジュは外国からやってきた木で、昔はなかったんだよ！そして、成長が早いので、他の木の成長を邪魔したり、花粉を運ぶハチを独り占めしてしまふ問題があります・・・」ほら、ここにもハリエンジュの子ども木がある！「じゃ小さいうちに伐っちゃえば！」でも、この木にも命があります。少しみんな考えてみましょう！地域の環境を壊す外来種の問題は、排除すれば解決するものではありません。子どもたちに、このような森林環境教育を行うことで「自然への気づき」を与え、それを深めることで自然を大切に育む心が育まれていきます。この自然豊かな名寄でこのような活動ができることに幸せを感じています。



### 大学図書館へようこそ！

大学図書館では新入生への図書館利用ガイダンスがすべて終了しました。ガイダンスでは利用上のルール、本の並び方、請求記号の役割など、図書館をより便利に有効に使うための基礎を学びます。

図書館を上手に使いこなすことが大学生活を成功させる鍵になるといってもよいでしょう。

※6月は日曜日が休館です。

※ICチップ付の入館証(兼貸出カード)をご希望の方は、平日の9時から17時30分に大学事務局へお越しください。

#### ◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)



### 大学図書館にはこんな本があります

～く「知」への誘い～からもう1歩～

森や樹木に関する図書を紹介します。

『いま里山が必要な理由(わけ)』

たなか あつお 田中淳夫/著 洋泉社

『樹皮ハンドブック』

『紅葉ハンドブック』

『冬芽ハンドブック』

はやし まさゆき いずれも林将之/写真・著 文一総合出版

『21世紀を森林(もり)の時代に』

やうろう たけし 養老孟司・天野礼子ほか/著 北海道新聞社

『葉っぱで見わけ五感で楽しむ樹木図鑑』

ネイチャー・プロ編集室/編著 ナツメ社